

Link

KOMAZAWA
UNIVERSITY

Vol.5
2015.5

挑戦を続け、未来に繋ぐ チャレンジKOMAZAWA

「13年ぶりにリーグ、明治神宮大会優勝の快挙
監督と選手一丸で、めざすは連続優勝」

硬式野球部

経営学部 青木ゼミ

自転車部 檜木祥子

福島県田村市の震災復興に「行学一如」の精神で取り組む

田村市長 富塚宥暲

田村市復興応援隊長 佐原 禅 福島県復興支援専門員 畠 善弘

[Special Talk]

高田英子&森 順子

フリーアナウンサー (株)ハッピーアロー代表取締役

[名誉教授に聞く]

高橋文二 名誉教授

C O N T E N T S

2 **【特集】**
 挑戦を続け、未来に繋ぐ
チャレンジKOMAZAWA

3 「13年ぶりにリーグ、明治神宮大会優勝の快挙
 監督と選手一丸で、めざすは連続優勝」
硬式野球部

6 「若者が料理に親しむには？
 企業との共同プロジェクト進行中」
 経営学部 **青木ゼミ**

7 「大学から始めた自転車ロードレースで
 日本代表に」
 自転車部 **檜木祥子**

8 福島県田村市の震災復興に
 「行学一如」の精神で取り組む
 田村市長 **富塚有暲**
 田村市復興応援隊長 佐原 禅
 福島県復興支援専門員 畠 善弘

10 **【駒澤大学アーカイブ】**
駒沢にオリンピックがやってきた

12 **【名誉教授に聞く】**
 心の風景を描く『源氏物語』の世界
高橋文二 名誉教授

13 **【Special Talk】**
 のびやかな女性活躍の時代へ
高田英子&森 順子
 フリーアナウンサー (株)ハッピーアロー代表取締役

16 **【研究レポート】**
仏教学部 石井公成教授
 「聖徳太子から文学、音楽、芸能まで
 仏教研究のおもしろさとは？」
文学部 モート、セーラ教授
 「禅の書や水墨画に魅せられ来日
 大田垣蓮月や池大雅の生き方に迫りたい」

18 **駒大NEWS**
 2014~15年

20 **駒澤大学の就職力** ~キャリアセンターの取り組み~
 2014年度就職データ

22 **駒澤大学のヴィジョン**

23 **学長メッセージ・沿革**



13年ぶりにリーグ、明治神宮大会優勝の快挙
 監督と選手一丸で、めざすは連続優勝

硬式野球部

禅の実践と仏教の研究の場としてスタートし
 400年以上に及ぶ伝統と歴史をもつ駒澤大学。
 学問と同時に実践も重視する「行学一如」を理念に

現代社会への深い洞察力と、
 未来に向けて課題を解決していく行動力を育てている。
 そんな未来への挑戦を続ける
 駒澤大学の学生たちと卒業生の姿を紹介しよう。

挑戦を続け、未来に繋ぐ
チャレンジ
 KOMAZAWA

駒澤大学硬式野球部は昨年、見事な復活を遂げた。東都大学野球秋季リーグ戦1部で2001年秋以来26季13年ぶりのリーグ優勝。続いて行われた明治神宮野球大会でも、13年ぶりの優勝を果たし、大学日本一の栄冠を手にした。

躍進の原動力となったものはいったい何だったのか。そして、今年の新たな挑戦——。

(文中、敬称略)

**長きにわたった困難を乗り越え
 13年ぶりのリーグ、明治神宮大会優勝**

その瞬間、スタンドからは紙テープが舞い、グラウンドとベンチにいた選手たちはマウンドに駆け寄り、秋の青空に向かって人指し指を突き上げた。13年ぶり5度目の大学日本一の瞬間だった——。

昨年の東都大学野球秋季リーグ戦1部で、駒澤大学硬式野球部は2001年秋以来26季ぶり27度目のリーグ優勝を果たした。それも5校すべての対戦校から勝ち点を上げる完全優勝だった。

その勢いそのまま臨んだ第45回記念明治神宮野球大会。全国各地の大学野球リーグの優勝チームの中から11のチームが参加して行われるトーナメント大会で、駒大は見事優勝し、歴代最多の5度目となる全国制覇を果たしたのだ。

この大会で決勝戦の相手となったのは前年準優勝で、東京六大学野球秋季リーグ戦優勝の明治大学。試合は、打っては主砲の江越が8回の好機に2点適時2塁打を打ち、守っては1年生ピッチャーの東野、エース今永の完封リレー。3対0での勝利だった。

東都大学リーグでの優勝が26季13年ぶりなら、明治神宮大会の優勝も13年ぶり。チームをダブル優勝に導いたのは、2012年2月に監督に就任した西村亮だった。

駒澤大学硬式野球部は1947年創部の伝統あるチームであり、東都大学リーグ1部で常に優勝争いに加わってきた名門チームである。しかし、13年前に優勝してからは、優勝争いに加わるどころか2部降格も経験し、1部に復帰しても下位に低迷する時期が長かった。

名門チーム復活のために招聘されたのが、駒大OBで、当時J-R東日本東北野球部のコーチをしていた西村亮だった。

監督就任当時のことを西村は振り返って言う。

「大学の4年間は苦しいことも楽しいこともいろいろな経験をして、学ぶべきことがとても多かった4年間でしたが、監督ともなれば、野球部の伝統や駒澤魂というべきものを、今の選手たちがいかに伝えていくかが問われるわけで、再び駒澤大学のユニホームを着るということはまったくイメージしたことがありませんでした。自分にはできないという気持ちが強くて、最初ははつきりと、監督就任は無理ですとお断りしました」

当時、西村は37歳。社会人チームのコーチを務めていたが、監督の経験はなかった。しかし、高校、大学、社会人のいずれのチームでも主将としてチームを牽引してきた実績があり、選手としても努力の人だった。

駒大時代は3年生まではなかなかレギュラーの座をつかめなかったが、4年生になって遅咲きの花を咲かせ、秋には打率5割1分5厘で東都大学リーグの首位打者に輝いた。

や先輩たちからの指導を受けつつも、やるべきことは自分で判断して、行動できる人間が多ければ多いほど、チームは強くなると西村は信じている。

**負ければ即2部に転落
「戦国東都」で勝ち続けるには**

そうした西村の指導を1年生のときから受けてきたのが、今年、主将になった4年生の巻木周平だ。

「監督、コーチにあいさつするのは当然のことですが、僕らが寮生活を送り、練習している場所は住宅地です。近所の方も見に来てくださるので、そういった方々へのあいさつもきちっとするようにしています。野球をやる以前のことを大事にしているのが駒大野球部のカラーであり、いいところだと思います」

同じことをチーフマネージャーで4年生の土屋雅飛も言う。

「特に今年のチームは私生活も野球に繋がっていると考えている選手が多いように感じます。野球だけやっていたらいいというわけではないとわかれば、野球に取り組む姿勢も変わっていくし、責任感も生まれていくのではないのでしょうか」

監督、主将、チーフマネージャーまでがそこまで野球に対する「姿勢」を口にするのは理由がある。

東都大学リーグは「戦国東都」といわれるほど厳しいリーグだ。何しろ東都には東京六大学リーグと違って降格の試練がある。1部から4部まで、各部の最下位とその下の部の優勝校とが対戦して、昇格か残留かを争う。たとえ春季1部リーグで優勝しても、秋季リーグで最下位となり、2部リーグ優勝校と

の入れ替え戦で負ければ、即2部転落となる。「力が安定していないと2部に落ちてしまうという怖さがあるのが東都リーグです。今シーズンだから次のシーズンまた頑張ればいいというわけにはいかず、負ければ落ちてしまいますから、絶えず緊張感があります」と西村。

4年生から下級生まで常に一定のレベルが求められることから、降格の試練に打ち勝つだけの強い精神力と持続性が必要となる。そのためには野球の技術やパワーだけではなく、何をすべきかを自分で判断できる「人間力」が問われるのだ。

**神宮球場で真剣に戦う
選手姿を見に来てほしい**

強くなるためには、選手、スタッフそれぞれの役割分担も大切だ。巻木は主将としての決意をこう語る。

「今年のチームの場合、野手では飛び抜けた選手はおらず、横一線という感じ。そうなる個の力に頼るより、チームが丸となって戦っていかなければいけません。チーム力が求められるので、レギュラーの選手だけでなく、試合に出られない選手からも意見をもら

など、一人ひとりの声を大切にしたい。チーム全員の協力が大事です。いかにチームが一つになつてまとまって力を発揮できるか、その先頭立つのが主将の役割だと考えています」

チーフマネージャーの土屋も語る。

「マネージャーというと高校のマネージャーのイメージがあつて、選手にスポーツドリンクを用意したり、ノックのボールを渡すのが役目と思つている人が多いけれど、もっと多面でチームの裏方を務めるのが大学野球でのマネージャーの仕事です。練習試合を組んだり、外部との連絡や備品の管理、ホームペーの更新や部費の管理など金銭面のマネジメントも含めてマネージャーが担当し、チームを支える大事な役割を担っています。特に重要なのが事前の準備。選手が試合で活躍するために、準備を万全にしていきたいと思つています」

西村は監督に就任して今年で4年目。「慣れたか」と自問しても、いやいやまだまだ慣れていないし、監督の仕事が何なのか、いまだにわかつていない。恐らくずっとわからないまま、いろいろ迷うだろうし、これからも苦しいことがたくさんあると思いますよ。去年、優勝してよかったなと思つたのは一瞬だけ。次



何をすべきかを自分で判断できる「人間力」を鍛え世の中で「こいつは使える」と思われる人間に育ってほしい

そんな西村に託されたのが駒大野球部の復活。母校が窮地に立っているとすれば、一肌脱ぐのがOBでもある。

**37歳の若き監督が説いたのは
野球に取り組むひたむきな姿勢**

西村は、駒大野球部の一員だったころのことを思い出した。当時、監督は名将といわれた太田誠。1971年に駒大の監督に就任して以来、2005年までの35年間でリーグ優勝22回、全日本大学選手権優勝5回、明治神宮野球大会優勝4回と、駒大の黄金時代を築いた実績を持つ。

太田は、最上級生に一番厳しかったという。「練習の前と後にグラウンド整備をするのも、一番最初に出ていくのは最上級生、というのが太田監督の指導でした。気をつかって下級生が出てきたとしても、大事な部分、大変なところは最上級生が率先してやるのが駒大の伝統です。私が監督になったとき、駒大はそういうものだと思つていたら、汗かき仕事は下級生が担当していた」

一番大事なグラウンドを使っている者が先頭に立つてグラウンド整備をやるべきではないのか、チームを引っ張るというのはそういうことではないのか――。選手を育てるにあたって西村がまず説いたのは、野球に取り組む前の「ひたむきで真摯な姿勢の大切さだった」。

「部員たちは野球をやる前に学生ですし、学生である前に一人の人間ですから、そういったところをきちっとしてほしかった。ずれたところがあったときには、「それは違うよ」と正直に言うことにしました」

まずは当たり前のことをしっかりとこなし、それをどんなときも継続できるように。監督はいかを考えています」

監督として、チームがめざすものを聞くと、返ってきたのはやはり「人間としての成長」だった。

「卒業したあとに、世の中で『こいつは使える』と思われる人間に育ってほしいですね。100人以上の部員がいる中で、野球の上手い下手は当然あつて、卒業したあとプロや社会人野球の世界で生きていく者も出てくるでしょうが、それはほんの二握り。多くは大学で野球を辞めて、一般の会社員として毎日の生活を送ることになるでしょう。野球よりももっとシビアな世界が待っているわけです。でも社会に出たときに、『こいつ、いいな。明るくて、前向きで、仕事もできそうだな』と思われる人間になってほしい。そういう卒業生をたくさん輩出したい、というのが私の夢です」

今年も春のリーグ戦から公式戦が始まった。土屋はぜひ球場に足を運んで応援してほしいと言つた。

「選手たちが必死に野球をやっている姿って本当にかっこいいんです。ぜひ皆さん、神宮に足を運んで、僕たちがプレーしている姿を見てください。駒大野球部の活躍で、他の駒大生を元気づけることができれば最高です！」

監督: 西村 亮(にしむら あきら)
1997年3月文学部歴史学科卒。駒大では、一塁手として1996年春季リーグ戦でベストナイン、秋季リーグ戦ではベストナイン・首位打者を獲得。卒業後、JR東日本東北でプレーし、2007年からコーチ。2012年2月本学硬式野球部監督に就任。

主将: 巻木 周平(まきぎ しゅうへい)
経済学部現代応用経済学科4年。内野手。右投げ・左打ち。

主務(チーフマネージャー):
土屋 雅飛(つちや まさと)
経済学部現代応用経済学科4年。

チャームシグな笑顔が印象的な榎木さん。ところが、ウェアに着替えヘルメットをかぶると、学生自転車ロード界のトップアスリートに変身する。

3年生だった昨年6月、全日本学生選手権個人ロードレース大会で3位となり、同年7月にポロランドで開催された世界大学選手権自転車競技大会に日本代表として出場。結果は10位だったが、日本代表4人の中では2番目の成績を収めた。

榎木さんは中学・高校までは競泳の選手

自転車部

榎木祥子

Cycle Road Race



昨夏、世界大学選手権自転車競技大会に日本代表として出場した榎木祥子さん(文学部歴史学科4年)が自転車競技を始めたのは大学生になってから。1年生で女子ロード・ランキングの12位となり、2年で7位、そして3年では2位と飛躍を続けている。めざせ学生チャンピオン!

だったが、成績は中学時代の関東大会出場がベストというレベルであった。

「大学に入ったらやろうと思っていたのがトライアスロン。でも、最初から3種目すべてではなく、まずは1種目ずつやってレベルアップを図ろうと、自転車部に入りました。ロードレースという種目があると知ったのも入部してからで、ロードバイクも持っていませんでした」

入部したとき、部員は男子ばかりで女子は2人だけ。練習は男子と一緒に、東京都八王子や神奈川県厚木まで走りに行くときなど、当初はとにかくついていくだけで精一杯だったという。

駒澤大学の自転車部には指導者がいない。だからこそ自分たちで主体的に話し合い、スケジュールを決める。

「2年の秋からは主将になりましたが、そうなるも部全体をまとめないといけない。みんなの見本にならなければ、という気持ちになり、かえってやる気になりました」

指導者がいないため練習時間を自分で自由に決めることができる。それだけ厳しい自己管理が求められることにもなるが、自由にのびのびと練習できたことが、むしろ榎木さんを成長させたといえよう。

「得意なのは、距離が長くて、きつい上り坂があるレース。スピードも大切ですが、人のうしろについて走ると体力を温存できるので、駆け引きも重要です。多少、相手との体力差があっても勝機がある。ただの力勝負ではないところが競技の魅力ですね」

今年の目標は、学生の大会での優勝と、社会人を含めた全日本の大会で表彰台に立つこと。大学4年間の集大成となる2015年。榎木さんのさらなる活躍が期待される。

今年、榎木さんは日本自転車競技連盟の強化指定選手に選ばれた。実業団チームの「ニールプライド南信スバル」への加入も決まり、さらなる技術向上をめざす。



大学から始めた自転車ロードレースで日本代表に。

めざすはチャンピオン!

若者が料理に親しむには？ 企業との共同プロジェクト進行中



貝印社でのプレゼンテーションの様子。「ゼミでは外の組織とかかわり、何らかの“夢”の実現を目標にゴールをめざすことを重視しています。そのためにも学生たちが主体的に考え、チームとしてみんなで仕事を分け合いながら組織運営していくことが大切ですね」と青木教授。

経営学部

青木ゼミ

Cooperative Project



左から滝川さん(貝印)、中田さん(貝印)、小尾さん、渡辺さん、青木教授、齊藤さん、西村さん(貝印)

座学だけでなく、企業や自治体などと共同プロジェクトに取り組む実践を重視しているのが経営学部・青木茂樹教授のゼミ。

常に6~7つのプロジェクトが同時進行中で、メンバーたちの議論は真剣で、エキサイティング!

3月上旬のある日、東京・千代田区岩本町にある貝印(株)本社の一室。同社はキッチン用品から美容用品、業務用刃物物まで幅広い分野で事業展開している。青木ゼミの3人の学生たちが少し緊張した面持ちで商品本部企画担当の社員の皆さんに向かってプレゼンテーションしていた。

青木ゼミでは一昨年から同社と共同でプロジェクトを進めており、この日は学生たちが考えたプロモーションプランを提案したのだ。テーマは「若者が料理に親しむために

は」。学生たちの提案を聞いてみると――

「学生にアンケートを取ると、料理は面倒くさいと思っている人が非常に多く、料理がネタティブなものになっています。若者向けの調理器具といったハードだけでなく、ソフト面からも工夫を加え、料理のおもしろさを引き出すことで、料理の魅力を感じてもらえるようにしてはどうかと考えました」

学生たちの具体的な提案に次々と質問が浴びせられる。最終的に、来年を目標に商品化に持つていく方向性が示され、緊張した会議は一転して和やかな雰囲気になった。

貝印と共同プロジェクトを行うチームのメンバーは5人。2年生のときからこのチームに加わった齊藤彩乃さん(4年は語る)。

「議論を積み重ねるうちにどんどんアイデアがふくらんでいき、今、取り組んでいるのは新しい市場の創造。料理を健康市場と捉え、若者にもっと料理をしてほしいとブランディングを進めています」

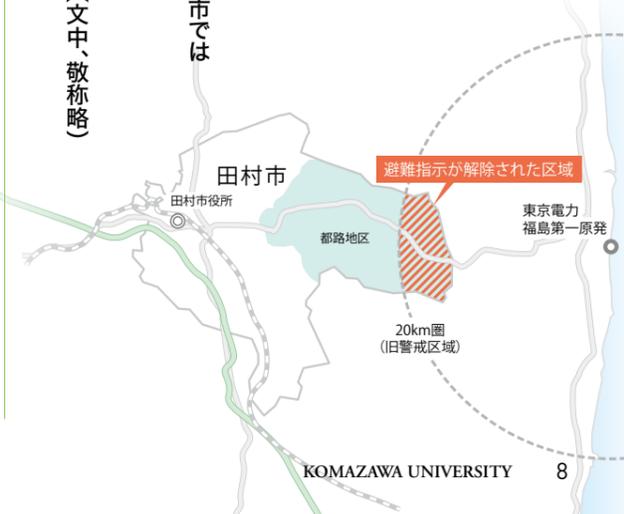
貝印とのコラボレーションで学んだのは「綿密な準備の重要性」だという。

「決められた日にしっかりと提案をするため、逆算してスケジュールを組み、準備します。適当にやっていたら前日に徹夜で間に合わせることになり、決断していいものは生まれませんからね」と小尾伸太郎さん(4年)。

「社会で活躍する方とともに取り組むことで人間的にも成長した」と語るのは渡辺頼希さん(4年)。「スキルが上がっただけでなく、人前で堂々と話せるようになるなど、さまざまな面で成長し、自分に自信が持てるようになりました」

来年の新製品発売に向けて、メンバーたちのチャレンジが続く。

福島県田村市の震災復興に「行学一如」の精神で取り組む



東日本大震災と福島第一原発事故から4年。市の一部が原発から20キロ圏内にあり、多くの住民が避難を余儀なくされた福島県田村市では、復興とまちづくりが進んでいる。その先頭に立つ市長、副市長、市の復興応援隊長、県全体の復興支援に当たる専門員はいずれも駒澤大学の卒業生。彼らに共通するもの、それは、学ぶことと実践とは一体であるという大学の建学の理念「行学一如」の精神だ。(文中、敬称略)

ピンチをチャンスに変え、田村市の将来を展望

田村市長 富塚有暁

「これからは語学が必要」と英米文学科へ
 坂上田村麻呂の東征伝説が残る、緑豊かな高原都市、田村市。2005(平成17年)、「平成の大合併」により田村郡7町村のうち5町村が合併して田村市となり今年でちょうど10周年を迎えた。

市政誕生以来、3期連続で市長を務める富塚有暁は、日本五大文殊の一つ、市内船引町の安倍文殊堂に生まれた。父から「寺を継がなくてもよい」と言われ、これからの日本は語学が必要と、地元の高校を卒業後、駒澤大学文学部英米文学科に進んだ。

富塚には今も心に残る大学時代の思い出がある。あるとき先生が「80円のコーヒーで満足してはダメだ、1000円のコーヒーを飲みなさい」と言った。「高すぎる」と反駁

する富塚に先生は「80円のコーヒーを12回飲めば1000円になる。飲まずに『高い』と文句を言うのではなく、飲んでから判断しなさい」と諭したという。頭で考えて決めつけるのではなく、実際に自分の目で見て確かめる。学ぶと同時に実践・経験が重要だというのは、駒澤大学の建学の理念「行学一如」にほかならなかった。

大熊町からの避難を受け入れつつ 市民の避難も進める

大学卒業後は代用教員を経て旧船引町の職員に。教育課長、助役を経て、56歳のとき町長に推されて立候補し、初当選。

町長1期、市長3期を続ける中で大切にしてきたのが、人と人との繋がりが。合併にあたって富塚が強調したのは、田村市は5つ

の気持ちに添えて国に対して早期の除染を要望。その結果、昨年4月、20km圏内で最初の避難指示解除が実現し、住み慣れたわが家への帰還が可能となった。2015年4月末までに住民の半数近くが帰還したという。

復興とまちづくりをめざして ビジョンを策定

「震災と原発事故はピンチだが、それを

チャンスに変えたい」と富塚。震災から1年後の2012年3月には「田村市震災等復興ビジョン」を策定し、住民自身の自発的な取り組みを支援する仕組みづくりや企業誘致などさまざまな施策が動き出している。

復興と飛躍のためにはそれを推進する人材が必要と、市議会の同意を得て副市長を1人から2人に増員し、2013年10月、副市長に就任したのが志村和俊だ。志

村は偶然ではあるものの、駒澤大学卒業で、1993年通産省入省後、福島産業復興推進室室長補佐を経て、現在富塚とともに田村市の未来を切り拓こうとしている。

将来の田村市を展望して、富塚が何より力を入れているのは教育だという。

「3歳から5歳までの就学前教育を無料にしました。また教育振興推進プログラムを策定し、特にネイティブの英語助手の小学校への

派遣やホームステイ研修など英語力の強化に努めています」

富塚が駒澤大学に入学したときに抱いた「これからの日本は語学こそが必要だ」という志が、今、田村市に生きている。

富塚有暁(こみつか ゆうけい)
 1968年3月文学部英米文学科卒業。2003(平成15年)4月船引町長に就任。2005(平成17年)4月町村合併に伴い、田村市長就任。現在、三期目を務めている。

住民が自らの手で活力ある地域を創り出すための支援を

田村市復興応援隊長 佐原 祥

福島県復興支援専門員 畠 善弘

復興とコミュニティ再生を進めるために、総務省の復興支援員制度を活用して2013年7月に発足したのが「田村市復興応援隊」だ。現在、隊員は9人。被災者の生活支援や交流イベントの実施、地域おこしの企画推進など多彩な活動を展開している。

隊長の佐原祥(1998年3月法学部卒)は北海道生まれ。横浜市で営業マンとして働きながら、震災後1年間、仲間とボランティア部隊を結成し毎週のようにガレキ撤去などの活動をしてきたが、もっと被災地の役に立ちたいと、一昨年夏から支援員として働いている。

一方、田村市だけでなく、福島県の各地域を訪ね、復興支援員の後方支援チームとして施策をサポートするのが、ふくしま連携復興センターに所属する復興支援専門員の畠



田村市復興プロジェクトで誕生した、地元産の食材を8種類使った「たむら八彩(やさい)カレー」

仮設住宅の集会所を活用した田村市復興応援隊船引事務所の前で。左が佐原、右が畠

「復興は決して簡単ではありません。今何よりも必要なのは人、それも若い人たちです。県外から若い人が訪ねて行くと、住民が元気になる。地域の良さに気づき、次にまた来てくれるならもっとおいしいものを作ろうと、住民が自ら動き出し、前向きなムーブメントが生まれています」

畠もこう語る。

「うれしいのは、私のようなUターンだけでなく、Iターンで福島の復興のために何かやりたいと集まってくる人が多いこと。復興支援員の約7割はそんな20〜30代の若い人たち。まだまだ先の見えない部分もありますが、着実に復興に向かって歩んでいるので、福島に帰って来てよかったとしみじみ思います。これからは全国の皆さんの応援をお願いします!」





1964年当時の駒沢オリンピック公園と駒沢大学



1940年の「幻の東京オリンピック」 実現していれば駒沢がメイン会場だった

戦争のため、開催が決まっていながら実現せず、「幻の大会」となったのが1940年の東京オリンピックだ。予定通り実施されていたら、駒沢大学に隣接するゴルフ場跡地が大会のメイン会場になるはずで、駒沢大学も何らかの役割を果たしていたかもしれない。駒沢大学が、麻布北日ヶ窪から現在の駒沢の地（旧東京府荏原郡駒澤村）に移転したのは1913年のこと。同年、大学の南側に広がる

通称「デンギリ山」と呼ばれる起伏の多い広大な土地に、日本で初めての日本人の手によるゴルフ場「東京ゴルフ倶楽部」がオープンしたものの、1932年埼玉県に移転。その跡地に、東京オリンピックの主会場として10万人超を収容する世界最大級の競技場と、水泳会場「選手村」の建設が予定され、大会2カ月前の1940年7月に竣工の予定だった。ちなみに、1938年開業の地下鉄銀座線の渋谷駅が地下ではなく地上3階にあるのは、窪地にある渋谷駅からそのまま地上を通過して駒沢まで電車を走らせる計画があったからといわれている。

駒沢大学の隣に、1964年に開催された第18回オリンピック競技大会で第2会場となった「駒沢オリンピック公園」がある。航空写真で見るとまるで大学の敷地と勘違いしてしまうほど。歴史をひもといてみても、オリンピックと駒沢大学との関係は深い。2020年、再び東京が舞台となるオリンピック・パラリンピック大会ではどんな物語が生まれるのだろうか？

駒沢大学アーカイブ

駒沢にオリンピックがやってきた

1940→1964→2020へ



アジア初の1964年東京オリンピック 再び駒沢が脚光浴びる

ゴルフ場跡地は、戦時中は空襲に備えての防空緑地となり、戦後は農地となつて食料生産に使われたりしたもの、やがて総合運動場として整備されるようになった。幻のオリンピックから24年後の1964年に東京オリンピックが開催されることになったとき、再び脚光を浴びたのが駒沢の地。第2会場として、サッカー、バレーボール、ホッケー、レスリングの4種の競技会場となったのである。そうなるに隣接する駒沢大学への期待も高まり、東京オリンピック組織委員会から、バレーボール練習施設を提供して欲しいかとの要請があった。そこで駒沢大学は開校80周年記念事業の



建設中の体育館 1963年

一環として講堂兼体育館（6号館）の新築を決定。組織委員会からの補助金も得て、総工費3億8800万円余をかけた鉄筋3階建て、8091・18mの講堂兼体育館が1964年5月に完成した。オリンピック開催中は「オリンピック駒沢大学協力会」を組織し、体育館は日本と金メダルを争ったソ連（当時）やアメリカチームのバレーボール競技の練習場となった。なお、体育館増上の須弥壇には、彫刻家の難波孫次郎氏に依頼して制作した一仏両祖（釈迦如来、道元禪師、瑩山禪師）を安置。これは日本古来の仏教美術を世界各国の人々に見てもらおうとオリンピック協賛事業として行ったもの。50年余にわたり、入学式・卒業式で使用されてきたこの体育館はキャンパス再開発のため、今年5月から解体工事が始まったが、これらの仏像は、記念講堂に移設されている。



ソ連女子バレーボールチームの練習風景



2015年1月13日付「日刊スポーツ」より

51年前の東京五輪で「野球」開催 ユニホームの文字は「KOMAZAWA」

2020年の東京オリンピックでは野球復活の可能性が高まっているが、1964年の東京オリンピックの公開競技として野球が行われ、全米学生選抜と試合をした全日本学生選抜の選手たちがなんと「駒沢大学」のユニホームを着たという話が残っている。試合が行われたのは、開会式翌日の

1964年10月11日。神宮球場で全米学生選抜チームと日本の2チームとのダブルヘッダーだった。第1試合は全日本学生選抜チーム、第2試合は全日本社会人選抜チームと対戦し、第1試合は2対2の引き分け、第2試合は3対0で全米学生選抜チームの勝利だった。観衆は4万5000人で球場は超満員。当時の野球の人気ぶりがわかるが、第1試合の全日本学生選抜チームのユニホームを見て、観客は驚いた。



- 1 仏像制作にあたる難波孫次郎氏
- 2 体育館・講堂落成式の様子
- 3 駒沢オリンピック公園の聖火



2020年に向けて

2014年6月、駒沢大学は公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会と、2020年東京大会に向け、オリンピックの歴史や意義を広めるオリンピック教育の推進

や学生ボランティアの派遣など、相互の資源を生かして連携を図るための協定を締結した。駒沢大学出身の有力選手の活躍も期待される東京大会。どんなドラマが待っているだろうか。

「51年前も東京で五輪野球」との見出しで当時の様子を伝えた「日刊スポーツ」（2015年1月13日付）は以下のように報じている。当時慶大3年で、後に中日、巨人などで活躍した広野功（71）が振り返った。「ユニホームの採寸をした時に『あれ！』って思いました。『KOMAZAWA』のユニホームだったんですよ。帽子だけなぜか『J』ってついていて（以下略）」。全日本学生選抜のユニホームは、なんと「KOMAZAWA」と記されていた。

駒大中心の学生最強チーム

当時、全日本学生選抜の指揮をとったのは、春の全日本大学野球選手権で優勝した駒大監督の小林昭仁さん（85）だった。小林さんは「日刊スポーツ」の取材に対し、「（全日本大学野球選手権で）勝ったチームが主体となって出ることは決まっていたけど、今みたい

のびやかな 女性活躍の 時代へ

現在駒澤大学の女子学生比率は約4割。なかには6割を超える学科も複数あり、社会で活躍する卒業生は多い。
今回は、北海道文化放送のアナウンサー時代、フジテレビ系列の「めざましテレビ」リポーターとして全国のお茶の間に明るい話題を届け、今はフリーアナウンサーとして活躍する高田英子さん、岩手朝日テレビ、テレビ北海道のアナウンサーを務めた後、キャリア教育・研修を専門とする会社を立ち上げた森順子さんに、アナウンサーになっただけでなく、駒澤時代の思い出、女性がいっき輝くために大切なことをうかがった。

森順子
Junko Mori

Special
Talk

高田英子
Eiko Takada

名誉教授に聞く

心の風景を描く 『源氏物語』の世界

たかはし ぶんじ
高橋文二 名誉教授

1938年東京生まれ。62年駒澤大学文学部国文学科卒業。1970年京都大学大学院文学研究科国語国文学専攻修士課程修了。72年より駒澤大学文学部講師。助教授を経て82年教授。図書館長、文学部長など歴任。文学博士。2009年定年退職。『風景と共感覚』『物語鎮魂論』など著書、論文多数。



京都の風土や自然に触れ
平安朝の文学に興味

もともと私は地方の寺の出身ですが、父が駒澤大学の漢文・詩傷の教員で、家も大学の近くにありましたから大学の隣の駒沢オリンピック公園（当時はイモ畑）の周辺でよく遊んだものです。駒澤大学の総長だった水野弘元先生は隣にお住まいで、仏教学者の中村元先生のお宅も近くでした。そんな御縁もあって駒澤大学に入りましたが、古典文学にひかれ、熱心に学ぶようになったのは京都大学の大学院に行くようになってからです。大学院生の方は下鴨神社のすぐそばに下宿し、京都の風土や自然、人情に触れるうち、古典文学、とりわけ『源氏物語』や『更級日記』などの平安朝の文学に魅力を感じるようになり、『源氏物語』などに描かれた自然描写や心理描写を考察することで、平安京に生きた作者たちの心の内、自然観や人間観、宗教観を探ろうと考えようになりました。

自然と共鳴しながら
心理を描く王朝文学

平安朝の、とりわけ女流文学のように、細かい微妙な形で自然と共鳴しながら人の心理を描くというのは、世界の文学にも例が少ないことだと思います。

私自身、自然が好きで、中でも温暖の地の樹木が好きです。クスノキなどの常緑樹は、私の遠い先祖は南から来たのではないかと思うくらい大好きです。人には未生以前の記憶があつて、私の場合、サワサワと葉を揺らすク

スノキを見るときも懐かしさを感じ、心が揺さぶられるのです。

平安朝の文学を読むときも、自身の未生以前の記憶を大事にし、この国の風土や四季折々の風情を忘れまいという思いがあります。そういう心で作品に向かっていると、自然との関わりの中で生き、表現した王朝人の理解にも繋がっていくと考えるからです。

「あくがる心(魂)」は
王朝女性の魂の救済

平安朝の女性たちの心を探るキーワードの一つに「あくがる心(魂)」があります。和泉式部が貴船明神に詣でたときに詠んだ歌「もの思へば沢の蛸もわが身よりあくがれいづる魂かとぞみる」が「後拾遺和歌集」に収録されています。民俗学的には「あくがる魂」は魂が乱れ、遊離していくから鎮魂しなければいけないものです。そこで貴船明神は、魂が飛び散ってしまうほどに思い悩んではいけないよ、と歌を返します。しかし、私たちの心にあつては、そんな病気のような状態でも、思い出に浸ることこそが、鎮めであり、救いでもあるのです。このように男たちの常識の枠を超えた、奥深い美的な精神世界が描かれているのが王朝文学の世界であると私は考えています。

瑞々しい感性から
逆に学んだ37年間

駒澤大学には教員として37年間お世話になり、教職員の皆さんとさまざまな縁を結び、思い出は尽きません。また若い学生

の皆さんと一緒に勉強し、合宿し、周辺の自然、風土を体感したりしたこと(平安文学研究会)も、豊かな体験として残っています。向学心・好奇心の旺盛な時期ですから、こちらからちょっと刺激を与えるだけでもものすごい反応が返ってくる。学生たちの感性の瑞々しさから私自身多くのことを学びました。

ゼミでよくやったのは用語、用例の調査です。たとえば『源氏物語』に「美し」という言葉がどれだけ出てくるか、誰に対して一番多く使われているか、というようなことを分類・分析したりすると、若い感性は必ず何か新しい発見をしてくる。それが楽しみでもありました。

在職中は体操競技部の部長も務めました。地方などでの競技の場に臨み、選手の方々の活躍ぶりに心うたれ、運動部の面白さ、楽しさを実感したこともよき思い出となっています。



男たちを待つ間や、神仏と出会う参籠のさなかの平安朝の女性たちの精神の状態を「まどろみ」から読み解いた『王朝まどろみ論』。紫式部の時代の自然観・人間観・宗教観をレクチャーしたNHKラジオ講座も人気を博した。

ライフスタイルに合わせて
自分なりに変わっていくことの
大切さを実感。ゆったりと
中身を育てるよう心がけています。



高田 英子
Eiko Takada

プロフィール
群馬県前橋市出身。経営学部経営学科卒業後、北海道文化放送に入社。フジテレビ系列の朝の番組「めざましテレビ」の北海道文化放送リポーターを長く務める。2001年に退社後は、東京を拠点にフリーアナウンサーとして活躍中。



学生時代の高田さん(左から3番目)

**駒澤大学の思い出と
アナウンサーをめざしたきっかけ**

——お二人が駒澤大学を選んだ理由は？

高田 実家が珠算塾を開いていて、一人っ子だったのでゆくゆくは実家を継がなくてはならないということもあり、選んだのが経営学部でした。簿記も学べるから、実家の確定申告のときは助かるかなという感じでしたね。いざ入ってみると、まわりは男性ばかり。女性は1割もいなかったと思います。群馬の前橋出身で子どものころから東京へ行きたくだったので、勉強よりむしろ東京での生活を満喫した4年間でした。

森 子どものころからとても好きなテレビ番組があつて、それはTBS系列で放送している「世界ふしぎ発見!」。そこに登場する世界を旅するミステリーハンターに憧れていたんです。そのためには日本や世界の地理や旅行のことをもっと知らないといけないと高校の先生に相談したら、地理学科に進学したらどうかと勧められたのが駒澤大学。授業で一番身になったのはフィールドワークですね。先生方



がいろいろなところに調査で連れて行ってくれる。それで行動力がついた気がします。

——アナウンサーになろうと思ったのは？

高田 小さいころから珠算を学ぶ環境にあり、幼稚園の年長のとき、当時全国最年少で珠算1級に合格したんです。話題になってテレビの「小川宏ショー」に出演したのですが、緊張して暗算を間違えてしまったんです。そのとき慰めてくれた女性アナウンサーが優しくいい方でした。私の中でアナウンサー11人となり、子ども心にアナウンサーになりたいと思つたのです。もっともアナウンサーだと思つたのはアシスタントをしていた女優の浜美枝さんでしたけど(笑)。

大学を卒業したら実家に帰ることになっていましたが、このままでいいのかと思つたとき、「アナウンサーになりたい」という子どものころの夢が蘇つてきて、全国のテレビ局の採用試験を受け始めました。何社も落ちるたびに憧れではなく「アナウンサーになりたい」と思いが強くなつたのですが・・・そんな中、本当に無理なのかと諦めかけたころ、縁もない北海道の「北海道文化放送」から内定

担当し、当時58市町村あった岩手県内を1町村ずつ、アポなしで取材する企画がありました。それこそ岩手版「ミステリーハンター」ですね(笑)。そこで生きたのが大学時代に学んだフィールドワーク。地理を勉強していたことがとても役に立ちました。

**道は違つても
常に自分を磨き続けるのは同じ**

——お二人の現在、そしてこれからの計画を教えてください。

高田 森さんが岩手朝日テレビをやめてテレビ北海道に入社したのは2007年ですね。そのころ私は北海道文化放送を退社し結婚後、東京に引越していたので、北海道でお会いすることはありませんでしたけど・・・

現在は東京を拠点にフリーアナウンサーをやつていて、イベントなどの司会もしています。アナウンサーの仕事が続けてきて感じるのは、ライフスタイルに合わせて自分なりに変わっていくことの大切さですね。20代のころは自信がなくても若いというだけで突っ走れたかもしれなけれど、30代、40代と年を重ねていくとそ

アナウンスだけでなく、
思いを人に伝える仕事に興味。
人間力を磨く「じぶん創造塾」の
立ち上げをめざして活動中。



森 順子
Junko Mori

プロフィール
千葉県大網白里市出身。文学部地理学科卒業。立教大学大学院観光学研究科(中退)を経て2002年岩手朝日テレビ入社。07年に退社しテレビ北海道入社。09年同社退社後、専門学校講師を経て、14年札幌市で(株)ハッピーアロー設立。



学生時代の森さん(一番左)

をいただいたのです。
森 ミステリーハンターに憧れたとはいえ、なかなかできないことは調べてわかりました(笑)。モデルやタレントさんなどがオーディションを受けてるんですね。それは無理だろうけど、やはり旅行に関わる仕事に就きたいと観光学研究科がある大学院に進学。あるとき、テレビ局のアナウンサーも旅をするわけで、ミステリーハンターじゃないかと思つたんです。
駒大に入社したころ、大学の広報誌に載つたアナウンサーの道に進んだ高田さんの体験談を読みました。先輩にアナウンサーになつた人がいるとわかつて、頑張れば私もなれるかもしれないという気持ちが深層心理にあつたのは間違いないですね。

**全道、全県くまなく回り
スッテンドロリンのハプニングも**

——アナウンサー時代の思い出は？

高田 フジテレビ系の「めざましテレビ」の北海道のリポーターを長く務めました。当時は、朝5時55分頃から放送開始で、会社集合は午前1時。3分程度の中継のために4時間ぐ

うはいかない。その人が経験してきた中身が重要になつてきて、薄っぺらだらたらそれが画面にも出てしまう怖さがあります。だからこそ、仕事だけではなく、ときめいた海外アーティストの母国語を学んでみたり、主婦としての節約の術を知りたく、エゴ検定にチャレンジしてみた、ゆつたりと中身を育てるよう心がけています。なかなかできませんが(笑)。

森 局アナをやめたあとは、フリーアナウンサーをやつた、ただニュース原稿を読むだけでなく自分の思いを直接伝えたいと、講師の仕事に力を入れるようになり、昨年1月、企業研修やキャリア教育などを行う「ハッピーアロー」という会社を設立しました。さらに今年、人材育成のための「じぶん創造塾」という塾を立ち上げる予定で、今夏のオープンをめざして準備中です。大学生の就職面接指導を行っている、正直、夢が持っていない学生が非常に多い。立派な能力を持っているはずなのに、どうしたらいいかわからないと悩んでいるんですね。自分の隠れた能力を見つけ出し、本当にやりたいことに向かう生きる力、人間力を磨くきっかけをサポートできればと思つています。

らい前から準備しないとイケませんからね。スピードスケートの橋本聖子選手が着ていたレーシングスーツをプレゼントするという企画では、橋本さんの実家がある早来町まで行つて、私もレーシングスーツを着てスケートしたり、カムイワッカの滝に登つたり、とにかく何でもやりました。スッテンドロリンと転んだりのハプニングもけっこうありましたが、ハプニングがあつたほうが東京のスタジオは喜んでりして・・・(笑)。

森 局アナ時代に、一番やつてよかった仕事や、訪問してよかった場所つてありますか？

高田 あのころ、北海道には212の市町村があつて、ほとんどの市町村に行きましたね。もちろん仕事ですから大変なこともありましたが、そのときの景色やおいしいものや人々の出会いはかけがえのないもので、いまだに覚えてます。広い北海道でも移動は車だったので、冬には、札幌から根室まで、8時間くらいかかることもありました。おかげで局アナをやめてからは、あまり北海道内を旅行する気にはならなくなりました(笑)。
森 私は岩手朝日テレビにアナウンサーとし

**チャレンジできる環境で
たくさん失敗して成長を**

——最後に駒澤で得たものや後輩へのアドバイスをお願いします。

高田 経営学部で出会った女子学生は皆それぞれに自分の目標を持っていました。それが刺激になつて、アナウンサーに憧れるばかりで目的がなかった私も、チャレンジしようという意欲を持つことができました。

森 そう。チャレンジできる環境だったことが本当に力になった。いっぱい失敗して、打たれ強くもなつたし、すべてが今に生きています。

高田 駒大の同窓生を母校に迎えるホームカミングデーの司会を担当しているのですが、私の時代と違い、女子学生が増えてキャンパスが実に華やかなんです。渋谷に近いという地の利もあるし、大いに学生生活をエンジョイしてほしいですね。

森 同感!一つのキャンパスでいろいろな人とコミュニケーションできることも駒澤のいいところ。ぜひ出会いを大切に、いろいろなことにチャレンジしてください。



禅の書や水墨画に魅せられ来日 大田垣蓮月や 池大雅の生き方に迫りたい

美術史を学ぶうち、屏風、掛け軸や根付に興味を持ち、
もっと日本文化と日本美術を学びたいと来日。
1年の予定がすでに15年を過ぎ、趣味でお茶や書道をこなすまでに。
日本人以上に奥ゆかしい、“英国生まれの大和撫子”のような先生だ。

文学部英米文学科 **モート, セーラ** 教授

英国出身。オックスフォード大学修士。日本大学非常勤講師を経て2009年から駒澤大学に。
2013年より現職。1872年設立の日本アジア協会会長も務める。

**変革の時代を生きた女性芸術家
大田垣蓮月の世界**
これまで、白隠や山岡鉄舟、谷文晁などを研究してきましたが、現在力を注いでいるのが、江戸後期から明治初期にかけての変革の時代を生きた女性芸術家である大田垣蓮月です。蓮月は浄土宗の尼僧で、すぐれた書家、歌人、陶芸家でも

あったら仏教を知らずしてはできないといえるほど、仏教は私たちの暮らしや文化に強い影響を与えています。文学や美術はもちろん、教育、建築、医学、すべてにおいて仏教がかかわっています。というのも、仏教が中国から伝わってきた当時、日本やチベットにはそもそも文字がありませんでした。そこへ文字とともに仏教が入り、同時にさまざまな文化・文明が一緒にやってきたのです。
たとえば印刷技術は仏教から生まれていき、当時としては画期的な動力である水車もお寺から広まりました。つまり仏教公伝はハイテク、今でいえば原子力発電所のプラントを輸入するようなものだったのです。

仏教は芸術とも結びついており、日本の芸術のおそらく8割以上は仏教が関係しています。落語や浄瑠璃もお寺から育ちました。お坊さんは信者たちを退屈させるわけにいきませんから、お経を読むとともに「落ち」のあるおもしろい話をしたわけです。仏教という何やら抹香くさいものと考えますが、こうした仏教の役割の重要性を理解してほしいですね。

**ロンドンで日本美術と出会い
墨の線の奥深さに魅せられる**
オックスフォード大学で美術と美術史を学ぶなかで日本の美術に出会い、興味をひかれました。特に関心を持ったのは日本の禅の書水墨画です。墨の線の奥深さ、墨の濃淡による表現の美しさが強く印象に残りました。
その後、ロンドンのロイヤル・アカデミー・オブ・アーツで、桃山時代から江戸時代にかけての日本美術を紹介する展覧会がありました。絵画や工芸・染織・書跡などが数多く出品され、屏風や掛軸、書に目を奪われ、日本美術をさらに深く研究したいと思うようになりました。

当初、1カ月ほど来日して美術館や博物館、寺院などを見て回りましたが、帰国後、本格的に日本美術を研究したいと、世川財団の助成金を得て1年間にわたり日本に滞在。日本のよいところを知りたいと、日本に職を得て現地に至っています。

本だけではなく本物に触れる
課外授業や海外研修にも積極的
駒澤大学のよい点は、学内にすばらしい禅文化歴史博物館があること。学生時代から禅に興味を持ち、禅の書を研究してきた私にとって、願ってもない環境です。授業で坐禅があるのも駒澤ならでは。
また国際センターがあり、学生のために海外留学支援が積極的に行われている点もよい点です。留学するだけでなく、交換留学で日本にやってきた海外からの留学生と交流することで、日常的に異文化を体験することも大切ですね。

私の授業は、英国の文化や時代背景について、その時代の絵画なども参考にしながら学生の興味のあるテーマを取り

ありました。夫や子どもと死に別れ前半生は薄幸でしたが、それを乗り越え、後半生は信仰と芸術、社会への奉仕に身を捧げました。蓮月の芸術は、国内外でコレクシヨンされ、2007年にオーストラリア国立美術館で彼女の書と陶芸の展覧会が開催されるなど、国際的に高い評価を受けています。そんな蓮月の作品群や、現存する書簡などを参考にしながら、彼女の人生と芸術の関係などについて研究を進めており、近いうちに本にまとめたことを考えています。

また、江戸中期の文人画家である池大雅の研究も、これから取り組みたいテーマの一つです。

入れ、すべて英語で行っています。グループ別に課題について英語で発表させ、英語でディスカッションしているのは、学生たちに日本語と同じように英語に慣れてもらい、国際的な視野に立つて、将来世界で活躍してほしいからです。
知識は本だけでは身に付きません。本物を見る目を養うためにも、美術館や博物館に出かけています。海外研修では、毎夏1週間大学院生とオックスフォード大学に滞在し、ポドリアン図書館で研究テーマの本や多くの参考文献など英語の原文を読むことで、知識を深めています。若いうちに異文化を体験することで、多くのことを吸収してほしいと考えています。

根津美術館 (東京都港区)でのフィールドワーク風景



聖徳太子から文学、音楽、芸能まで 仏教研究のおもしろさとは？

華嚴宗、地論宗、禅宗、聖徳太子などを柱に、
中国、朝鮮、日本、ベトナムにおける仏教教理について研究する一方、
仏教と文学や芸能との関係なども探求する石井先生の関心は実に広い。
早くから仏教文献の電子化にも中心的に取り組み、研究に生かしている。

仏教学部 **石井公成** 教授

東京生まれ。早稲田大学第一文学部東洋哲学専攻卒業。同大学院人文科学研究科後期課程単位取得退学。文学博士。2006年より現職。著書に『華嚴思想の研究』『新アジア仏教史10 朝鮮半島・ベトナム 漢字文化圏への広がり』など。ブログ「聖徳太子研究の最前線」(<http://blog.goo.ne.jp/kosei-gooblog/>)を公開中。



中国からの仏教公伝は 古代におけるハイテク輸入

東洋の歴史や文化について学ぼうと思つたら仏教を知らずしてはできないといえるほど、仏教は私たちの暮らしや文化に強い影響を与えています。文学や美術はもちろん、教育、建築、医学、すべてにおいて仏教がかかわっています。というのも、仏教が中国から伝わってきた当時、日本やチベットにはそもそも文字がありませんでした。そこへ文字とともに仏教が入り、同時にさまざまな文化・文明が一緒にやってきたのです。
たとえば印刷技術は仏教から生まれていき、当時としては画期的な動力である水車もお寺から広まりました。つまり仏教公伝はハイテク、今でいえば原子力発電所のプラントを輸入するようなものだったのです。

仏教は芸術とも結びついており、日本の芸術のおそらく8割以上は仏教が関係しています。落語や浄瑠璃もお寺から育ちました。お坊さんは信者たちを退屈させるわけにいきませんから、お経を読むとともに「落ち」のあるおもしろい話をしたわけです。仏教という何やら抹香くさいものと考えますが、こうした仏教の役割の重要性を理解してほしいですね。

聖徳太子の研究も大学院のころから続いています。歴史家たちにとって、聖徳太子研究は那馬台国研究と並んで熱い論争を巻き起こすテーマのようです。それは日本人のアイデンティティにかかわっているからでしょう。一方で聖徳太子を礼讃する人がいるかと思えば、伝説にすぎないと批判する人や、なかには「聖徳太子はいなかった」と説く研究者もいます。



615年頃-聖徳太子によって著されたと伝えられる「法華義疏」も研究材料の一つ

聖徳太子研究の常識を覆した 『三経義疏』の解説

日本最古の書物とされ、聖徳太子の自筆とされる『三経義疏』は、実際には聖徳太子が書いたものではなく中国から持ってきたものを聖徳太子が読み上げただけだ、というのがこの20・30年間、日本史学の常識となっていました。しかし、『三経

また、平安文学を研究するなかで仏教を知らなければこれ以上解明できないと思いつつ、ついでに、仏教と国家主義の関係についても興味がありました。道元の『正法眼蔵』を読んで衝撃を受け、東洋の歴史、文学を研究するための基礎として仏教を学ぼうと考えたのが今から40年前のことです。

40年経つてようやく 研究のスタートラインに

仏教に興味を持ったのは一つには子どもころから「死」について関心があり、これに対して仏教が深い洞察を加えていることに心をひかれたからです。

義疏』を詳しく調べたところ、立派な漢文とひどい漢文が混じっていることがわかりました。ひどい漢文の部分は中国人が書くはずのない漢文であり、中国で書かれたという説は誤りであるとの論文を発表したところ、今は私の説を日本史学の研究者も認めてくれています。
こうした文体の研究などは、私自身が作成にかかわった大蔵経のテキストデータベースや台湾の仏教経典のデータベースなどを活用したものです。

ところが40年経つても基礎の研究がまだに終わらない。学生時代にインド、中国、韓国、日本の仏教思想の比較という壮大なテーマを掲げたのですが、ようやく研究のスタートラインに立ったところで、仏教とは、それぐらい果てのない研究テーマだといえるかもしれません。

文学部社会科学部 坪井ゼミ

「世田谷区まちづくり大学生プレゼン大会」で優秀賞を受賞

2014年12月に開催された「世田谷区まちづくり大学生プレゼン大会」(主催:世田谷区、せたがや自治政策研究所)で、文学部社会科学部の坪井ゼミが「ヒューマンライブラリーによる多様性に寛容なまちづくりプラン」を提案し、最高賞の優秀賞を受賞した。



経済学部 瀬戸岡ゼミが

「日本学生経済ゼミナール」全国大会 プレゼンテーション部門で受賞

2014年12月7日に開催された、「第61回日本学生経済ゼミナールプレゼン大会」で、全国の大学から101チームが集まるなか、瀬戸岡ゼミから出場したゆーとびあチームが3位、geronチームが特別賞を受賞。



経済学部 番場ゼミの学生4人が 「懸賞論文」で優秀賞

経済学部番場ゼミに所属する松岡遥さん、堀由樹子さん、大澤佑介さん、峯崎真実さんが、公益財団法人九州運輸振興センター主催の懸賞論文募集で優秀賞を受賞。テーマは「アジア人リビーターによる地域活性化〜東京から見た大分県観光地化の可能性〜」。



空手道部 第57回全国空手道選手権大会優勝

2014年6月28日(土)・29日(日)に行われた第57回「全国空手道選手権大会」で、男女団体形・組手優勝、男子個人形ならびに女子個人形で準優勝、女子個人組手優勝など好成績を収めた。



トップアスリートが指導者に就任

2014年4月に総合教育研究部講師に就任したシドニーオリンピック金メダリストの瀧本誠講師が、柔道部部長に就任した。さらに、2015年4月より駒澤大学OBで富士通陸上競技部コーチを務めた藤田敦史氏が陸上競技部コーチに、社会人野球で活躍し日本通運でコーチを務めた新垣道太氏が硬式野球部のコーチに就任。

三遊亭遊馬 文化庁芸術祭で大賞受賞

仏教学部OBの落語家・三遊亭遊馬師匠が、平成26年度の第69回「文化庁芸術祭」で大衆芸能部門の大賞を受賞。

経営学部 青木ゼミ・藤原ゼミが 宮城県石巻市復興イベント 『学食×石巻』を開催

経営学部の青木ゼミ・藤原ゼミが、2014年4月23日(水)・24日(木)に、宮城県石巻市の米農家や漁師の方の協力を得て、郷土色あふれる学食限定メニュー「ねかばか定食」を販売するイベント「学食×石巻」を開催。用意した200食は完売した。



学生団体Green Growが 「学生ボランティア団体助成」事業に採択

キャンパスの清掃やエコキャップ回収をはじめ多彩な環境保全活動を展開する学生団体のGreen Growが、一般財団法人学生サポートセンター主催の「学生ボランティア団体助成」事業において2014年度の助成先の一つとして採択された。

2014~2015

駒大 NEWS

東京オリンピック・パラリンピック競技大会 組織委員会と大学連携協定を締結

2014年6月23日(月)に、公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会と大学連携協定を締結。これは2020年東京大会の成功に向け、それぞれの資源を活用し「オリンピック教育」の推進等、大会に向けた取り組みを進めるため、相互に連携・協力体制を構築することを目的としたもの。現在、本学を含め775校が賛同。



喫茶パオ閉店 惜しまれながら

1971年の開業以来、駒大のソウルフードとして親しまれた学内の軽食店パオが、2015年2月16日(月)、44年にわたる歴史に幕を閉じた。最終日は朝から多くの在学生・卒業生がレジに並び、人気メニューの「明太スパ」や「ミートスパ」などを味わい別れを惜しんだ。



仏教学部 山口弘江講師が 日本印度学仏教学会の 学会賞を受賞

仏教学関係の若手研究者の特筆すべき研究成果に対して送られるのが学会賞。受賞対象論文は、「地論師の『十地経論』注釈について」(『印度学仏教学研究』第62巻2号、2013年)。

ボクシング部・林田翔太選手 第17回アジア競技大会 銅メダル

韓国の仁川で開催された第17回「アジア競技大会」。ボクシングフライ級で林田翔太選手が日本代表として出場し、銅メダルに輝く。



一般入学試験合格者に 給付型の 奨学金制度を新設

2015年度の一般入学試験より、新たな奨学金制度を創設した。対象となるのは「全学部統一日程入試」に上位100人以内の得点で合格し、かつ第一志望の学部学科に入学する者。年間30万円を前期・後期分割支給する。給付期間は最短期間(4年間)で、成績により継続を認める。

大学院グローバル・メディア研究科 グローバル・メディア専攻博士後期課程開設

2015年4月、グローバルに発展するメディアの最新動向に関する幅広い知識と実践的な英語力を有する専門的な人材の育成をめざす大学院グローバル・メディア研究科の博士後期課程を設置。経営・産業面でのメディアの利活用、メディアとコミュニケーションの社会的・文化的影響、及びメディア分野の新しいサービスを志向する3つの側面を選択科目として設けるほか、理論と実践両面の能力を涵養するカリキュラムを編成している。

受験生サイト 「コマザワチャンネル」開設

オープンキャンパスや入試情報など、全国の受験生・保護者に役立つ最新ニュースを発信する「KOMAZAWA CHANNEL(コマザワチャンネル)」がオープン!



<http://komach.komazawa-u.ac.jp/>

文学部 国文学科 高田知波教授が 第22回「やまなし文学賞」受賞



同賞は、山梨県にゆかりの深い樋口一葉の生誕120年を記念して制定され、小説と研究・評論の2部門で優れた成果を顕彰する賞。受賞作は「姓と性―近代文学における名前とジェンダー」(翰林書房)。

経済学部 小栗崇資教授が 会計理論学会の学会賞を受賞

受賞作は「日本的スピノフ・ベンチャー創出論―新しい産業集積と実践コミュニティを事例とする実証研究―」(同友館2012年2月)。同書は平成24年度中小企業研究奨励賞・経済部門本賞も受賞している。



文学部 国文学科 近衛典子教授が日本学術振興会から表彰
同教授は、独立行政法人日本学術振興会の特別研究員事業の審査にあたって、審査の基盤となる書面審査において有意義な審査意見を付し審査の質の向上に貢献したとして「平成25年度特別研究員等審査会専門委員」として表彰された。

駒澤大学の就職力

～キャリアセンターの取り組み～

一人ひとりの学生との面談を重視し、じっくりと相談に乗りながら就職支援を行っているのが駒澤大学のキャリアセンター。心身とも充実した就職活動をしてほしいため、支援プログラムの中に坐禅講座を設けているのも本学ならでは。きめ細かい指導で90%以上の内定率を達成している。

3年次に一人ひとりと面談

約2900人の就職希望者に対して、求人数は年間1万2000社を超え、学内説明会の参加企業も1000社以上にのぼる。こうした恵まれた就職環境の中で大切になってくるのが、いかにして学生と企業とのベストマッチを実現させるか。

就職活動の解禁が12月から3月へと大幅に後ろ倒しとなり、就活が短期決戦となるといわれる本年度の就職戦線だが、本学では例年通り、一人ひとりのきめ細かなサポートを行っている。特に重視しているのが個人面談だ。キャリアセンターの藤野幹之部長は「1対1でじっくりと話しながら、一緒に考えていく、手づくりの支援を推進しています」と語る。

3年次の4月に第1回就職ガイダンスがスタート。その後、面接希望者を対象に、2か月間をかけて進路の方向を一人ずつ面談します」と鴨居敬就職課長。

この個人面談も含め、キャリアセンターに相談に訪れた学生とは「カウンター越しには話さないのが鉄則だ」という。

「学生にとって大事な将来のことです。決して立ち話はしません」と藤野部長。このためセンター内のスタッフの机の前には常にイスが用意されており、じっくり相談することが可能。個々人の状況に合わせた進路相談にあたりしているのだ。

また、昨年度から始めたのが保護者を対象とした就職支援についての説明会。キャリアに対する意識を高めてもらい、現在の就職事情を理解してもらう目的で、入学式終了後に開催している。

約300にのぼる就職支援講座

同センターでは、入学時から卒業まで、全学生のキャリアアップのための施策を進めているが、特に力を入れているのが3年生になってからの就職支援プログラムだ。

自己分析の仕方、エントリーシートの作成方法、業界研究など就活の基本に関するレクチャーから、面接での心構えやグループディスカッションへの取り組み方といった本番に則した講座が用意され、就活の初期から採用試験終盤まで必要な情報を提供する講座は約300にも及び。

増加傾向にあるUターン、Vターンへの対策も万全だ。

「毎年10月には、各地の就職支援担当者招いてUターン就職セミナーを開催し、5月から6月に各都道府県で開催される父母を対象とした教育懇談会では、地元を担当者に出席していただいてUターン情報を提供していただいています」（鴨居課長）

本学卒業生がUターン就職することについて、各地の期待は高く、今年1月には、Uターン就職

の一層の推進を図ることを目的に、本学と長野県との間で協定が結ばれており、ほかの県でも協定締結の準備が進行中だ。

坐禅で精神を集中!

本学ならではのプログラムが坐禅体験。就活に励む3年生を対象に駒沢キャンパス内の坐禅堂で行われ、仏教学部の教員が講師として指導にあたる。

「口管打坐（しかんたざ）の言葉の通り、坐ることによって身体は安定し、心を集中させることにより心身の調和がとれていく。参加した学生たちからは、気力が充実して就活にプラスになったと好評だ。

就職支援の先頭に立つ藤野部長、鴨居課長に、駒澤卒業生の強みをうかがうと――。

「7つの学部がすべて一つのキャンパスにあり、全学生が4年間同じキャンパスで過ごすので、さまざまな学部の学生と揉まれ、「コミュニケーション」が取れる学生が多い。出身地や学部、学年を超えた交流によって多様な価値観に触れることができ、人間力を高めることに繋がっています。また、部活動を応援する中で一体感が生まれ、大学への帰属意識が強いのも駒澤の特徴。就職しても自分の会社への帰属意識が働き、会社に貢献するに違いありません」



学内合同企業説明会

社会に飛び立つ駒大生 ～駒澤大学の就職状況レポート～

就職状況 2015年3月31日現在

※求職登録及び進路の届出をしていない者は除く

	仏教学部		文学部						経済学部		法学部			経営学部		医療健康科学部	GMS学部	合計	
	禅	仏教	国文	英米文	地理	歴史	社会	心理	経済	商	現応経	法律A	法律B	政治	経営				市戦
就職希望者数*	55	97	108	116	101	178	146	61	347	231	123	251	111	177	292	181	41	299	2915
就職決定者数	54	93	98	107	98	164	137	60	319	217	119	237	97	169	275	173	41	289	2747
進学者数 (大学院・大学・留学)	3	10	1	6	6	17	4	11	2	5	1	15	4	2	14	3	7	6	117
各種学校進学者数 (専門学校等)	1	2	0	0	1	1	4	1	0	5	1	1	4	1	3	3	0	7	35
各種試験受験準備	3	1	4	6	3	14	5	1	10	5	5	15	11	3	6	0	10	5	107

主な就職先 (2014年度卒業生)

学部	就職先	
仏教学部	警視庁 神奈川県警察 教員	
	地理学	不二家 アジア航測 東京地下鉄 JR東日本 JR北海道 東京トヨタ自動車 ニトリ 三井住友銀行 常陽銀行 武蔵野銀行 多摩信用金庫 明治安田生命保険 日本郵政グループ 小田急トラベル ANAエアポートサービス 茨城県警察 川崎市人事委員会 国土交通省 京都市交通局 文京区役所 あきる野市役所 糸魚川市役所 教員 大学職員
	心理学	JR東日本 大和冷機工業 コーセーコスメポート 三井住友銀行 横浜銀行 三井住友カード JAセレサ川崎 日本郵政グループ 社会福祉法人 神奈川県社会福祉事業団 社会福祉法人使團 児童養護施設今井城学園
	現代応用経済学	伊藤園 Meiji Seikaファルマ 東京楽天地 JR東日本 東急バス 三井住友銀行 千葉銀行 横濱銀行 常陽銀行 長野銀行 横浜信用金庫 JCB SMBCフレンド証券 日本生命保険 ANA成田エアポートサービス 日本年金機構 日本赤十字社 館林市役所 神奈川県警察
	政治学	久光製薬 タカラスタンダード JR東日本 相模鉄道 日本通運 日本アクセス みずほフィナンシャルグループ 常陽銀行 住友生命保険 日本郵政グループ NTTタウンページ ノバレーゼ AOKIホールディングス 国立特別支援教育総合研究所 一般財団法人公園財団 一般社団法人日本自動車連盟(JAF) 栃木県商工会連合会 JTBグループ NTT東日本 コナミデジタルエンタテインメント エイベックスグループホールディングス 警視庁 横浜市消防局 柏市役所 大学職員
	医療健康科学部	診療放射線技術科 独立行政法人国立病院機構 神奈川県厚生農業協同組合連合会 相模原協同病院 一般財団法人自警会 東北放送 千葉県地検察庁 東京警察病院 学校法人東京歯科大学 市川総合病院 警視庁 栃木県警察 横濱労災病院 社会福祉法人 聖隷福祉事業団 医療法人財団健真会 総合東京病院 医療法人社団永生会 南多摩病院 医療法人社団三成会 新百合ヶ丘総合病院
	法学部	理想科学工業 ナイスク 新興出版社啓林館 フルボン 東京電力 みずほ信託不動産販売 東京ヤクルト販売 日本アクセス 三井住友銀行 みずほフィナンシャルグループ 川崎信用金庫 日本生命保険 日本郵政グループ 日本郵政グループ 日本年金機構 オリエンタルランド 横浜商工会議所 JA北海道厚生連 イチヂ・アイ・エス 関東信越国税局 草加市役所 坂戸市役所 相模原市役所 行方市役所 成田市役所
	経営学部	スズキ 伊藤園 フルボン クリナップ 沖電気工業 森ビル 大和ハウス工業 東京地下鉄 そごう・西武 セブン-イレブン・ジャパン 三菱東京UFJ銀行 三井住友銀行 みずほフィナンシャルグループ 千葉銀行 足利銀行 SMBCフレンド証券 あいおいニッセイ同和損害保険 三井住友海上火災保険 日本年金機構 近畿日本ツーリスト リゾートトラスト 読売旅行 コムコ 国税庁 警視庁 神栖市役所 相模原市役所 富士吉田市役所 船橋市役所 大学職員
	市場戦略学	シャープ 小野薬品工業 キネマ旬報社 カンロ 三越伊勢丹 セブン-イレブン・ジャパン 大塚商会 日本出版販売 みずほフィナンシャルグループ 東京都民銀行 ユーシーカード 岡三証券 損害保険ジャパン日本興亜 JR東日本 相模鉄道 日本通運 NTT東日本 コナミデジタルエンタテインメント エイベックスグループホールディングス 警視庁 横浜市消防局 柏市役所 大学職員
	経済学	伊藤園 Meiji Seikaファルマ 東京楽天地 JR東日本 東急バス 三井住友銀行 千葉銀行 横濱銀行 常陽銀行 長野銀行 横浜信用金庫 JCB SMBCフレンド証券 日本生命保険 ANA成田エアポートサービス 日本年金機構 日本赤十字社 館林市役所 神奈川県警察
法学部	理想科学工業 ナイスク 新興出版社啓林館 フルボン 東京電力 みずほ信託不動産販売 東京ヤクルト販売 日本アクセス 三井住友銀行 みずほフィナンシャルグループ 川崎信用金庫 日本生命保険 日本郵政グループ 日本郵政グループ 日本年金機構 オリエンタルランド 横浜商工会議所 JA北海道厚生連 イチヂ・アイ・エス 関東信越国税局 草加市役所 坂戸市役所 相模原市役所 行方市役所 成田市役所	
経営学部	スズキ 伊藤園 フルボン クリナップ 沖電気工業 森ビル 大和ハウス工業 東京地下鉄 そごう・西武 セブン-イレブン・ジャパン 三菱東京UFJ銀行 三井住友銀行 みずほフィナンシャルグループ 千葉銀行 足利銀行 SMBCフレンド証券 あいおいニッセイ同和損害保険 三井住友海上火災保険 日本年金機構 近畿日本ツーリスト リゾートトラスト 読売旅行 コムコ 国税庁 警視庁 神栖市役所 相模原市役所 富士吉田市役所 船橋市役所 大学職員	
市場戦略学	シャープ 小野薬品工業 キネマ旬報社 カンロ 三越伊勢丹 セブン-イレブン・ジャパン 大塚商会 日本出版販売 みずほフィナンシャルグループ 東京都民銀行 ユーシーカード 岡三証券 損害保険ジャパン日本興亜 JR東日本 相模鉄道 日本通運 NTT東日本 コナミデジタルエンタテインメント エイベックスグループホールディングス 警視庁 横浜市消防局 柏市役所 大学職員	
経済学	伊藤園 Meiji Seikaファルマ 東京楽天地 JR東日本 東急バス 三井住友銀行 千葉銀行 横濱銀行 常陽銀行 長野銀行 横浜信用金庫 JCB SMBCフレンド証券 日本生命保険 ANA成田エアポートサービス 日本年金機構 日本赤十字社 館林市役所 神奈川県警察	
法学部	理想科学工業 ナイスク 新興出版社啓林館 フルボン 東京電力 みずほ信託不動産販売 東京ヤクルト販売 日本アクセス 三井住友銀行 みずほフィナンシャルグループ 川崎信用金庫 日本生命保険 日本郵政グループ 日本郵政グループ 日本年金機構 オリエンタルランド 横浜商工会議所 JA北海道厚生連 イチヂ・アイ・エス 関東信越国税局 草加市役所 坂戸市役所 相模原市役所 行方市役所 成田市役所	
経営学部	スズキ 伊藤園 フルボン クリナップ 沖電気工業 森ビル 大和ハウス工業 東京地下鉄 そごう・西武 セブン-イレブン・ジャパン 三菱東京UFJ銀行 三井住友銀行 みずほフィナンシャルグループ 千葉銀行 足利銀行 SMBCフレンド証券 あいおいニッセイ同和損害保険 三井住友海上火災保険 日本年金機構 近畿日本ツーリスト リゾートトラスト 読売旅行 コムコ 国税庁 警視庁 神栖市役所 相模原市役所 富士吉田市役所 船橋市役所 大学職員	
市場戦略学	シャープ 小野薬品工業 キネマ旬報社 カンロ 三越伊勢丹 セブン-イレブン・ジャパン 大塚商会 日本出版販売 みずほフィナンシャルグループ 東京都民銀行 ユーシーカード 岡三証券 損害保険ジャパン日本興亜 JR東日本 相模鉄道 日本通運 NTT東日本 コナミデジタルエンタテインメント エイベックスグループホールディングス 警視庁 横浜市消防局 柏市役所 大学職員	
経済学	伊藤園 Meiji Seikaファルマ 東京楽天地 JR東日本 東急バス 三井住友銀行 千葉銀行 横濱銀行 常陽銀行 長野銀行 横浜信用金庫 JCB SMBCフレンド証券 日本生命保険 ANA成田エアポートサービス 日本年金機構 日本赤十字社 館林市役所 神奈川県警察	
法学部	理想科学工業 ナイスク 新興出版社啓林館 フルボン 東京電力 みずほ信託不動産販売 東京ヤクルト販売 日本アクセス 三井住友銀行 みずほフィナンシャルグループ 川崎信用金庫 日本生命保険 日本郵政グループ 日本郵政グループ 日本年金機構 オリエンタルランド 横浜商工会議所 JA北海道厚生連 イチヂ・アイ・エス 関東信越国税局 草加市役所 坂戸市役所 相模原市役所 行方市役所 成田市役所	
経営学部	スズキ 伊藤園 フルボン クリナップ 沖電気工業 森ビル 大和ハウス工業 東京地下鉄 そごう・西武 セブン-イレブン・ジャパン 三菱東京UFJ銀行 三井住友銀行 みずほフィナンシャルグループ 千葉銀行 足利銀行 SMBCフレンド証券 あいおいニッセイ同和損害保険 三井住友海上火災保険 日本年金機構 近畿日本ツーリスト リゾートトラスト 読売旅行 コムコ 国税庁 警視庁 神栖市役所 相模原市役所 富士吉田市役所 船橋市役所 大学職員	
市場戦略学	シャープ 小野薬品工業 キネマ旬報社 カンロ 三越伊勢丹 セブン-イレブン・ジャパン 大塚商会 日本出版販売 みずほフィナンシャルグループ 東京都民銀行 ユーシーカード 岡三証券 損害保険ジャパン日本興亜 JR東日本 相模鉄道 日本通運 NTT東日本 コナミデジタルエンタテインメント エイベックスグループホールディングス 警視庁 横浜市消防局 柏市役所 大学職員	
経済学	伊藤園 Meiji Seikaファルマ 東京楽天地 JR東日本 東急バス 三井住友銀行 千葉銀行 横濱銀行 常陽銀行 長野銀行 横浜信用金庫 JCB SMBCフレンド証券 日本生命保険 ANA成田エアポートサービス 日本年金機構 日本赤十字社 館林市役所 神奈川県警察	
法学部	理想科学工業 ナイスク 新興出版社啓林館 フルボン 東京電力 みずほ信託不動産販売 東京ヤクルト販売 日本アクセス 三井住友銀行 みずほフィナンシャルグループ 川崎信用金庫 日本生命保険 日本郵政グループ 日本郵政グループ 日本年金機構 オリエンタルランド 横浜商工会議所 JA北海道厚生連 イチヂ・アイ・エス 関東信越国税局 草加市役所 坂戸市役所 相模原市役所 行方市役所 成田市役所	
経営学部	スズキ 伊藤園 フルボン クリナップ 沖電気工業 森ビル 大和ハウス工業 東京地下鉄 そごう・西武 セブン-イレブン・ジャパン 三菱東京UFJ銀行 三井住友銀行 みずほフィナンシャルグループ 千葉銀行 足利銀行 SMBCフレンド証券 あいおいニッセイ同和損害保険 三井住友海上火災保険 日本年金機構 近畿日本ツーリスト リゾートトラスト 読売旅行 コムコ 国税庁 警視庁 神栖市役所 相模原市役所 富士吉田市役所 船橋市役所 大学職員	
市場戦略学	シャープ 小野薬品工業 キネマ旬報社 カンロ 三越伊勢丹 セブン-イレブン・ジャパン 大塚商会 日本出版販売 みずほフィナンシャルグループ 東京都民銀行 ユーシーカード 岡三証券 損害保険ジャパン日本興亜 JR東日本 相模鉄道 日本通運 NTT東日本 コナミデジタルエンタテインメント エイベックスグループホールディングス 警視庁 横浜市消防局 柏市役所 大学職員	
経済学	伊藤園 Meiji Seikaファルマ 東京楽天地 JR東日本 東急バス 三井住友銀行 千葉銀行 横濱銀行 常陽銀行 長野銀行 横浜信用金庫 JCB SMBCフレンド証券 日本生命保険 ANA成田エアポートサービス 日本年金機構 日本赤十字社 館林市役所 神奈川県警察	
法学部	理想科学工業 ナイスク 新興出版社啓林館 フルボン 東京電力 みずほ信託不動産販売 東京ヤクルト販売 日本アクセス 三井住友銀行 みずほフィナンシャルグループ 川崎信用金庫 日本生命保険 日本郵政グループ 日本郵政グループ 日本年金機構 オリエンタルランド 横浜商工会議所 JA北海道厚生連 イチヂ・アイ・エス 関東信越国税局 草加市役所 坂戸市役所 相模原市役所 行方市役所 成田市役所	
経営学部	スズキ 伊藤園 フルボン クリナップ 沖電気工業 森ビル 大和ハウス工業 東京地下鉄 そごう・西武 セブン-イレブン・ジャパン 三菱東京UFJ銀行 三井住友銀行 みずほフィナンシャルグループ 千葉銀行 足利銀行 SMBCフレンド証券 あいおいニッセイ同和損害保険 三井住友海上火災保険 日本年金機構 近畿日本ツーリスト リゾートトラスト 読売旅行 コムコ 国税庁 警視庁 神栖市役所 相模原市役所 富士吉田市役所 船橋市役所 大学職員	
市場戦略学	シャープ 小野薬品工業 キネマ旬報社 カンロ 三越伊勢丹 セブン-イレブン・ジャパン 大塚商会 日本出版販売 みずほフィナンシャルグループ 東京都民銀行 ユーシーカード 岡三証券 損害保険ジャパン日本興亜 JR東日本 相模鉄道 日本通運 NTT東日本 コナミデジタルエンタテインメント エイベックスグループホールディングス 警視庁 横浜市消防局 柏市役所 大学職員	
経済学	伊藤園 Meiji Seikaファルマ 東京楽天地 JR東日本 東急バス 三井住友銀行 千葉銀行 横濱銀行 常陽銀行 長野銀行 横浜信用金庫 JCB SMBCフレンド証券 日本生命保険 ANA成田エアポートサービス 日本年金機構 日本赤十字社 館林市役所 神奈川県警察	
法学部	理想科学工業 ナイスク 新興出版社啓林館 フルボン 東京電力 みずほ信託不動産販売 東京ヤクルト販売 日本アクセス 三井住友銀行 みずほフィナンシャルグループ 川崎信用金庫 日本生命保険 日本郵政グループ 日本郵政グループ 日本年金機構 オリエンタルランド 横浜商工会議所 JA北海道厚生連 イチヂ・アイ・エス 関東信越国税局 草加市役所 坂戸市役所 相模原市役所 行方市役所 成田市役所	
経営学部	スズキ 伊藤園 フルボン クリナップ 沖電気工業 森ビル 大和ハウス工業 東京地下鉄 そごう・西武 セブン-イレブン・ジャパン 三菱東京UFJ銀行 三井住友銀行 みずほフィナンシャルグループ 千葉銀行 足利銀行 SMBCフレンド証券 あいおいニッセイ同和損害保険 三井住友海上火災保険 日本年金機構 近畿日本ツーリスト リゾートトラスト 読売旅行 コムコ 国税庁 警視庁 神栖市役所 相模原市役所 富士吉田市役所 船橋市役所 大学職員	
市場戦略学	シャープ 小野薬品工業 キネマ旬報社 カンロ 三越伊勢丹 セブン-イレブン・ジャパン 大塚商会 日本出版販売 みずほフィナンシャルグループ 東京都民銀行 ユーシーカード 岡三証券 損害保険ジャパン日本興亜 JR東日本 相模鉄道 日本通運 NTT東日本 コナミデジタルエンタテインメント エイベックスグループホールディングス 警視庁 横浜市消防局 柏市役所 大学職員	
経済学	伊藤園 Meiji Seikaファルマ 東京楽天地 JR東日本 東急バス 三井住友銀行 千葉銀行 横濱銀行 常陽銀行 長野銀行 横浜信用金庫 JCB SMBCフレンド証券 日本生命保険 ANA成田エアポートサービス 日本年金機構 日本赤十字社 館林市役所 神奈川県警察	
法学部	理想科学工業 ナイスク 新興出版社啓林館 フルボン 東京電力 みずほ信託不動産販売 東京ヤクルト販売 日本アクセス 三井住友銀行 みずほフィナンシャルグループ 川崎信用金庫 日本生命保険 日本郵政グループ 日本郵政グループ 日本年金機構 オリエンタルランド 横浜商工会議所 JA北海道厚生連 イチヂ・アイ・エス 関東信越国税局 草加市役所 坂戸市役所 相模原市役所 行方市役所 成田市役所	
経営学部	スズキ 伊藤園 フルボン クリナップ 沖電気工業 森ビル 大和ハウス工業 東京地下鉄 そごう・西武 セブン-イレブン・ジャパン 三菱東京UFJ銀行 三井住友銀行 みずほフィナンシャルグループ 千葉銀行 足利銀行 SMBCフレンド証券 あいおいニッセイ同和損害保険 三井住友海上火災保険 日本年金機構 近畿日本ツーリスト リゾートトラスト 読売旅行 コムコ 国税庁 警視庁 神栖市役所 相模原市役所 富士吉田市役所 船橋市役所 大学職員	
市場戦略学	シャープ 小野薬品工業 キネマ旬報社 カンロ 三越伊勢丹 セブン-イレブン・ジャパン 大塚商会 日本出版販売 みずほフィナンシャルグループ 東京都民銀行 ユーシーカード 岡三証券 損害保険ジャパン日本興亜 JR東日本 相模鉄道 日本通運 NTT東日本 コナミデジタルエンタテインメント エイベックスグループホールディングス 警視庁 横浜市消防局 柏市役所 大学職員	
経済学	伊藤園 Meiji Seikaファルマ 東京楽天地 JR東日本 東急バス 三井住友銀行 千葉銀行 横濱銀行 常陽銀行 長野銀行 横浜信用金庫 JCB SMBCフレンド証券 日本生命保険 ANA成田エアポートサービス 日本年金機構 日本赤十字社 館林市役所 神奈川県警察	
法学部	理想科学工業 ナイスク 新興出版社啓林館 フルボン 東京電力 みずほ信託不動産販売 東京ヤクルト販売 日本アクセス 三井住友銀行 みずほフィナンシャルグループ 川崎信用金庫 日本生命保険 日本郵政グループ 日本郵政グループ 日本年金機構 オリエンタルランド 横浜商工会議所 JA北海道厚生連 イチヂ・アイ・エス 関東信越国税局 草加市役所 坂戸市役所 相模原市役所 行方市役所 成田市役所	
経営学部	スズキ 伊藤園 フルボン クリナップ 沖電気工業 森ビル 大和ハウス工業 東京地下鉄 そごう・西武 セブン-イレブン・ジャパン 三菱東京UFJ銀行 三井住友銀行 みずほフィナンシャルグループ 千葉銀行 足利銀行 SMBCフレンド証券 あいおいニッセイ同和損害保険 三井住友海上火災保険 日本年金機構 近畿日本ツーリスト リゾートトラスト 読売旅行 コムコ 国税庁 警視庁 神栖市役所 相模原市役所 富士吉田市役所 船橋市役所 大学職員	
市場戦略学	シャープ 小野薬品工業 キネマ旬報社 カンロ 三越伊勢丹 セブン-イレブン・ジャパン 大塚商会 日本出版販売 みずほフィナンシャルグループ 東京都民銀行 ユーシーカード 岡三証券 損害保険ジャパン日本興亜 JR東日本 相模鉄道 日本通運 NTT東日本 コナミデジタルエンタテインメント エイベックスグループホールディングス 警視庁 横浜市消防局 柏市役所 大学職員	
経済学	伊藤園 Meiji Seikaファルマ 東京楽天地 JR東日本 東急バス 三井住友銀行 千葉銀行 横濱銀行 常陽銀行 長野銀行 横浜信用金庫 JCB SMBCフレンド証券 日本生命保険 ANA成田エアポートサービス 日本年金機構 日本赤十字社 館林市役所 神奈川県警察	
法学部	理想科学工業 ナイスク 新興出版社啓林館 フルボン 東京電力 みずほ信託不動産販売 東京ヤクルト販売 日本アクセス 三井住友銀行 みずほフィナンシャルグループ 川崎信用金庫 日本生命保険 日本郵政グループ 日本郵政グループ 日本年金機構 オリエンタルランド 横浜商工会議所 JA北海道厚生連 イチヂ・アイ・エス 関東信越国税局 草加市役所 坂戸市役所 相模原市役所 行方市役所 成田市役所	
経営学部	スズキ 伊藤園 フルボン クリナップ 沖電気工業 森ビル 大和ハウス工業 東京地下鉄 そごう・西武 セブン-イレブン・ジャパン 三菱東京UFJ銀行 三井住友銀行 みずほフィナンシャルグループ 千葉銀行 足利銀行 SMBCフレンド証券 あいおいニッセイ同和損害保険 三井住友海上火災保険 日本年金機構 近畿日本ツーリスト リゾートトラスト 読売旅行 コムコ 国税庁 警視庁 神栖市役所 相模原市役所 富士吉田市役所 船橋市役所 大学職員	
市場戦略学	シャープ 小野薬品工業 キネマ旬報社 カンロ 三越伊勢丹 セブン-イレブン・ジャパン 大塚商会 日本出版販売 みずほフィナンシャルグループ 東京都民銀行 ユーシーカード 岡三証券 損害保険ジャパン日本興亜 JR東日本 相模鉄道 日本通運 NTT東日本 コナミデジタルエンタテインメント エイベックスグループホールディングス 警視庁 横浜市消防局 柏市役所 大学職員	
経済学	伊藤園 Meiji Seikaファルマ 東京楽天地 JR東日本 東急バス 三井住友銀行 千葉銀行 横濱銀行 常陽銀行 長野銀行 横浜信用金庫 JCB SMBCフレンド証券 日本生命保険 ANA成田エアポートサービス 日本年金機構 日本赤十字社 館林市役所 神奈川県警察	
法学部	理想科学工業 ナイスク 新興出版社啓林館 フルボン 東京電力 みずほ信託不動産販売 東京ヤクルト販売 日本アクセス 三井住友銀行 みずほフィナンシャルグループ 川崎信用金庫 日本生命保険 日本郵政グループ 日本郵政グループ 日本年金機構 オリエンタルランド 横浜商工会議所 JA北海道厚生連 イチヂ・アイ・エス 関東信越国税局 草加市役所 坂戸市役所 相模原市役所 行方市役所 成田市役所	
経営学部	スズキ 伊藤園 フルボン クリナップ 沖電気工業 森ビル 大和ハウス工業 東京地下鉄 そごう・西武 セブン-イレブン・ジャパン 三菱東京UFJ銀行 三井住友銀行 みずほフィナンシャルグループ 千葉銀行 足利銀行 SMBCフレンド証券 あいおいニッセイ同和損害保険 三井住友海上火災保険 日本年金機構 近畿日本ツーリスト リゾートトラスト 読売旅行 コムコ 国税庁 警視庁 神栖市役所 相模原市役所 富士吉田市役所 船橋市役所 大学職員	
市場戦略学	シャープ 小野薬品工業 キネマ旬報社 カンロ 三越伊勢丹 セブン-イレブン・ジャパン 大塚商会 日本出版販売 みずほフィナンシャルグループ 東京都民銀行 ユーシーカード 岡三証券 損害保険ジャパン日本興亜 JR東日本 相模鉄道 日本通運 NTT東日本 コナミデジタルエンタテインメント エイベックスグループホールディングス 警視庁 横浜市消防局 柏市役所 大学職員	
経済学	伊藤園 Meiji Seikaファルマ 東京楽天地 JR東日本 東急バス 三井住友銀行 千葉銀行 横濱銀行 常陽銀行 長野銀行 横浜信用金庫 JCB SMBCフレンド証券 日本生命保険 ANA成田エアポートサービス 日本年金機構 日本赤十字社 館林市役所 神奈川県警察	
法学部	理想科学工業 ナイスク 新興出版社啓林館 フルボン 東京電力 みずほ信託不動産販売 東京ヤクルト販売 日本アクセス 三井住友銀行 みずほフィナンシャルグループ 川崎信用金庫 日本生命保険 日本郵政グループ 日本郵政グループ 日本年金機構 オリエンタルランド 横浜商工会議所 JA北海道厚生連 イチヂ・アイ・エス 関東信越国税局 草加市役所 坂戸市役所 相模原市役所 行方市役所 成田市役所	
経営学部	スズキ 伊藤園 フルボン クリナップ 沖電気工業 森ビル 大和ハウス工業 東京地下鉄 そごう・西武 セブン-イレブン・ジャパン 三菱東京UFJ銀行 三井住友銀行 みずほフィナンシャルグループ 千葉銀行 足利銀行 SMBCフレンド証券 あいおいニッセイ同和損害保険 三井住友海上火災保険 日本年金機構 近畿日本ツーリスト リゾートトラスト 読売旅行 コムコ 国税庁 警視庁 神栖市役所 相模原市役所 富士吉田市役所 船橋市役所 大学職員	
市場戦略学	シャープ 小野薬品工業 キネマ旬報社 カンロ 三越伊勢丹 セブン-イレブン・ジャパン 大塚商会 日本出版販売 みずほフィナンシャルグループ 東京都民銀行 ユーシーカード 岡三証券 損害保険ジャパン日本興亜 JR東日本 相模鉄道 日本通運 NTT東日本 コナミデジタルエンタテインメント エイベックスグループホールディングス 警視庁 横浜市消防局 柏市役所 大学職員	
経済学	伊藤園 Meiji Seikaファルマ 東京楽天地 JR東日本 東急バス 三井住友銀行 千葉銀行 横濱銀行 常陽銀行 長野銀行 横浜信用金庫 JCB SMBCフレンド証券 日本生命保険 ANA成田エアポートサービス 日本年金機構 日本赤十字社 館林市役所 神奈川県警察	
法学部	理想科学工業 ナイスク 新興出版社啓林館 フルボン 東京電力 みずほ信託不動産販売 東京ヤクルト販売 日本アクセス 三井住友銀行 みずほフィナンシャルグループ 川崎信用金庫 日本生命保険 日本郵政グループ 日本郵政グループ 日本年金機構 オリエンタルランド 横浜商工会議所 JA北海道厚生連 イチヂ・アイ・エス 関東信越国税局 草加市役所 坂戸市役所 相模原市役所 行方市役所 成田市役所	
経営学部	スズキ 伊藤園 フルボン クリナップ 沖電気工業 森ビル 大和ハウス工業 東京地下鉄 そごう・西武 セブン-イレブン・ジャパン 三菱東京UFJ銀行 三井住友銀行 みずほフィナンシャルグループ 千葉銀行 足利銀行 SMBCフレンド証券 あいおいニッセイ同和損害保険 三井住友海上火災保険 日本年金機構 近畿日本ツーリスト リゾートトラスト 読売旅行 コムコ 国税庁 警視庁 神栖市役所 相模原市役所 富士吉田市役所 船橋市役所 大学職員	
市場戦略学	シャープ 小野薬品工業 キネマ旬報社 カンロ 三越伊勢丹 セブン-イレブン・ジャパン 大塚商会 日本出版販売 みずほフィナンシャルグループ 東京都民銀行 ユーシーカード 岡三証券 損害保険ジャパン日本興亜 JR東日本 相模鉄道 日本通運 NTT東日本 コナミデジタルエンタテインメント エイベックスグループホールディングス 警視庁 横浜市消防局 柏市役所 大学職員	
経済学	伊藤園 Meiji Seikaファルマ 東京楽天地 JR東日本 東急バス 三井住友銀行 千葉銀行 横濱銀行 常陽銀行 長野銀行 横浜信用金庫 JCB SMBCフレンド証券 日本生命保険 ANA成田エアポートサービス 日本年金機構 日本赤十字社 館林市役所 神奈川県警察	
法学部	理想科学工業 ナイスク 新興出版社啓林館 フルボン 東京電力 みずほ信託不動産販売 東京ヤクルト販売 日本アクセス 三井住友銀行 みずほフィナンシャルグループ 川崎信用金庫 日本生命保険 日本郵政グループ 日本郵政グループ 日本年金機構 オリエンタルランド 横浜商工会議所 JA北海道厚生連 イチヂ・アイ・エス 関東信越国税局 草加市役所 坂戸市役所 相模原市役所 行方市役所 成田市役所	
経営学部	スズキ 伊藤園 フルボン クリナップ 沖電気工業 森ビル 大和ハウス工業 東京地下鉄 そごう・西武 セブン-イレブン・ジャパン 三菱東京UFJ銀行 三井住友銀行 みずほフィナンシャルグループ 千葉銀行 足利銀行 SMBCフレンド証券 あいおいニッセイ同和損害保険 三井住友海上火災保険 日本年金機構 近畿日本ツーリスト リゾートトラスト 読売旅行 コムコ 国税庁 警視庁 神栖市役所 相模原市役所 富士吉田市役所 船橋市役所 大学職員	
市場戦略学	シャープ 小野薬品工業 キネマ旬報社 カンロ 三越伊勢丹 セブン-イレブン・ジャパン 大塚商会 日本出版販売 みずほフィナンシャルグループ 東京都民銀行 ユーシーカード 岡三証券 損害保険ジャパン日本興亜 JR東日本 相模鉄道 日本通運 NTT東日本 コナミデジタルエンタテインメント エイベックスグループホールディングス 警視庁 横浜市消防局 柏市役所 大学職員	
経済学	伊藤園 Meiji Seikaファルマ 東京楽天地 JR東日本 東急バス 三井住友銀行 千葉銀行 横濱銀行 常陽銀行 長野銀行 横浜信用金庫 JCB SMBCフレンド証券 日本生命保険 ANA成田エアポートサービス 日本年金機構 日本赤十字社 館林市役所 神奈川県警察	
法学部	理想科学工業 ナイスク 新興出版社啓林館 フルボン 東京電力 みずほ信託不動産販売 東京ヤクルト販売 日本アクセス 三井住友銀行 みずほフィナンシャルグループ 川崎信用金庫 日本生命保険 日本郵政グループ 日本郵政グループ 日本年金機構 オリエンタルランド 横浜商工会議所 JA北海道厚生連 イチヂ・アイ・エス 関東信越国税局 草加市役所 坂戸市役所 相模原市役所 行方市役所 成田市役所	
経営学部	スズキ 伊藤園 フルボン クリナップ 沖電気工業 森ビル 大和ハウス工業 東京地下鉄 そごう・西武 セブン-イレブン・ジャパン 三菱東京UFJ銀行 三井住友銀行 みずほフィナンシャルグループ 千葉銀行 足利銀行 SMBCフレンド証券 あいおいニッセイ同和損害保険 三井住友海上火災保険 日本年金機構 近畿日本ツーリスト リゾートトラスト 読売旅行 コムコ 国税庁 警視庁 神栖市役所 相模原市役所 富士吉田市役所 船橋市役所 大学職員	
市場戦略学	シャープ 小野薬品工業 キネマ旬報社 カンロ 三越伊勢丹 セブン-イレブン・ジャパン 大塚商会 日本出版販売 みずほフィナンシャルグループ 東京都民銀行 ユーシーカード 岡三証券 損害保険ジャパン日本興亜 JR東日本 相模鉄道 日本通運 NTT東日本 コナミデジタルエンタテインメント エイベックスグループホールディングス 警視庁 横浜市消防局 柏市役所 大学職員	
経済学	伊藤園 Meiji Seikaファルマ 東京楽天地 JR東日本 東急バス 三井住友銀行 千葉銀行 横濱銀行 常陽銀行 長野銀行 横浜信用金庫 JCB SMBCフレンド証券 日本生命保険 ANA成田エアポートサービス 日本年金機構 日本赤十字社 館林市役所 神奈川県警察	
法学部	理想科学工業 ナイスク 新興出版社啓林館 フルボン 東京電力 みずほ信託不動産販売 東京ヤクルト販売 日本アクセス 三井住友銀行 みずほフィナンシャルグループ	

駒澤大学のヴィジョン

副学長（教育研究担当） 桑田 禮彰

変化が緩慢だったわが国の大学が大きく動き始めたのは、20年ほど前のことです。少子化が目の前に迫り、国際的にも国内的にも政治・経済・社会の深刻な問題が露呈して、深い危機意識の広がりとともに高等教育への切実な期待が高まったからです。

わが駒澤大学もそのころ、他大学とともに、「自己点検・評価」から改革の第一歩を踏み出しました。本学ではその報告書を「脚下照顧」と名づけています。「足もとを確かめ、自己を見つめつつ、前進する」の意です。

その歩みの中で、この度、本学の将来ヴィジョンが「施策体系」としてまとめられました。禅の学僧の教育研究の場としてはじまった本学の400年以上に及ぶ伝統・歴史を振り返り、現代社会の真つただ中の自己を見つめ、未

来に向かつて力強い一歩を踏み出すために、学校法人全体の英知を結集して策定した中長期計画です。あわせて駒澤大学は、この計画（P）を着実に実現（D）しそれを点検評価（C）しながらたえず改善（A）を行う体制を整えました。

本学は、最先端・最高峰の研究の推進、最新の教育方法の検証・実践、学習・生活における学生支援の充実、国際交流のさらなる展開、新校舎建設をはじめとするキャンパス整備などにより、豊かな教育環境を実現し、建学の理念「行学一如」（行動的学問・知的行動）に従い、鋭い洞察力・適確な判断力・力強い行動力を備え他人に優しい学生を養成し、同窓生・保護者との密接な連携のもと、就職をかわきりに生涯にわたり支援していきます。

「学長メッセージ」

「行学一如」の精神で

未来に向けたチャレンジを続ける

学長 廣瀬良弘

駒澤大学は、仏教の教えと禅の精神を礎としています。その建学の理念が「行学一如」です。学問研究に励むと同時に、行動し、実践を伴ったアクティブな学び、すなわち「行」も、「学」を自分の血肉とするために大切だとする考え方をいいます。高みに上りつめた姿だけが尊いのではなく、果てなき高みをめざして目の前の一歩一歩を着実に踏みしめていく努力もすばらしいこととして称えます。未来に向けて、一生懸命にチャレンジする日々の取り組みこそ尊いということとは、勇気づけられる考え方といえるでしょう。

さて、この5月からは「開校130周年

年記念棟」の工事が始まります。延床面積2万3800㎡、本部棟のある北側は4階建ての低層棟で屋上がルーフトラストとなり、駒沢公園に面した南側は9階建ての高層棟で、1階に広々とした学生食堂、2・9階に大小の講義室と多目的ホールが入る構想で、2017年12月に完成予定です。完成の暁には、明るくさわやかなキャンパスが実現することでしょう。

このほど、学園のヴィジョンも明確になりました。学生一人ひとりの質の向上とともに大学全体の教育の質を高め、禅の特色を生かし、日本に、世界に発信し、貢献する大学にしていきたいと考えています。



沿革

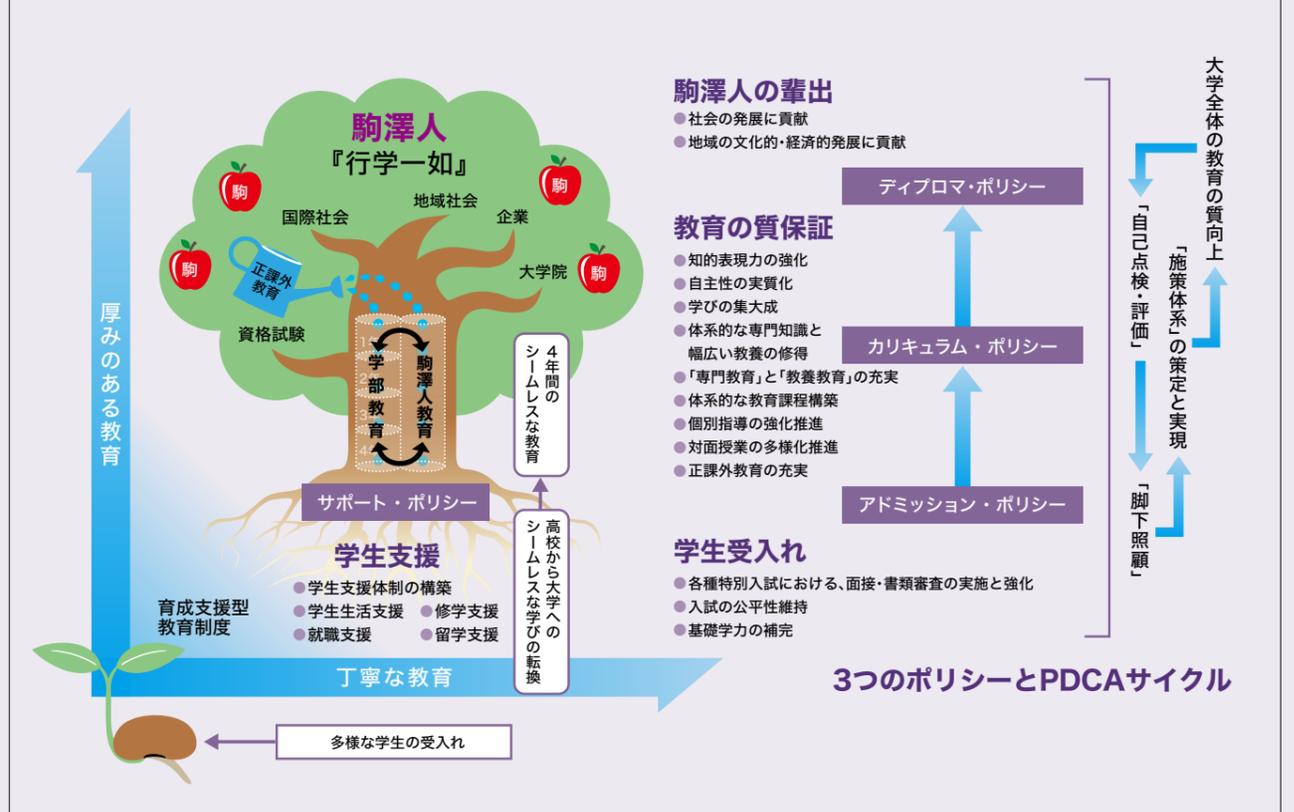
- 1592年 文禄元年 江戸駿河台吉祥寺境内に「学林」設立
駒澤大学の前身である「学林」は、曹洞宗が禅の実践と仏教の研究、そして漢学の振興を目的として設立
- 1657年 明暦 3年 吉祥寺駒込に移転、中国の名僧・陳道栄が「旃檀林」と命名
- 1882年 明治 15年 麻布北日ヶ窪に校舎を新築して移転、10月15日に校名を「曹洞宗大学林専門学本校」とする
- 1905年 明治 38年 校名を「曹洞宗大学」と改称
- 1913年 大正 2年 大学を現在の駒沢（旧東京府荏原郡駒澤村）の地に移転
- 1925年 大正 14年 大学令による大学として認可、「駒澤大学」と改称
- 1949年 昭和 24年 学制改革により新制大学に移行、仏教学部・文学部・商経学部の3学部で再スタート
- 1951年 昭和 26年 学校法人令による学校法人駒澤大学に組織変更
- 1964年 昭和 39年 法学部を開設
- 1965年 昭和 40年 商経学部を経済学部に変更
- 1969年 昭和 44年 経営学部を開設
- 1982年 昭和 57年 開校100周年
- 1992年 平成 4年 「学林」設立以来400年を迎える
- 2003年 平成 15年 医療健康科学部を開設
- 2004年 平成 16年 大学院法曹養成研究科（法科大学院）を開設
- 2006年 平成 18年 グローバル・メディア・スタディーズ学部を開設
- 2012年 平成 24年 開校130周年
- 2013年 平成 25年 駒沢移転100周年



学校法人駒澤大学教育機構



PDCAサイクル+育成支援型教育制度による総合的な学生の質向上





〒154-8525 東京都世田谷区駒沢1-23-1
TEL.(03)3418-9828 FAX.(03)3418-9017
<http://www.komazawa-u.ac.jp/>

K O M A Z A W A
U N I V E R S I T Y

Link

Link(リンク)には「人と人の繋がり」「伝統を繋げる」「地域と繋がる」という意味が込められています。